

長期ステロイド使用と中止後の全身皮膚症状に対して治療を続けた成人アトピーの経過 (40 歳 女性)

症例 ID：001-40-OY5 | 記録日：2016 年 7 月 28 日

1. 診断・治療前経過

20 歳頃に手荒れから症状が始まり、結婚・出産を経ながらステロイド外用を続けました。約 7 年前にステロイドを中止し、全身の落屑を伴う強い症状を約 1 年間経験しました。

その後も乾燥とかゆみが続き、ローションやクリームを使用しました。受診約 1 年半前には全身が厚く黒っぽい皮膚となり、治療を開始しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	手から全身へステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	20 歳頃から約 7 年前までです。
中止時期	記録の約 7 年前です。
来院前／後	来院前に長期使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
20 歳頃～	発症・外用	手荒れから始まり、ステロイド外用を続けました。
約 7 年前	中止	全身の落屑を伴う強い症状が約 1 年間続きました。
その後	症状持続	風呂上がりの乾燥とかゆみ、妊娠中の悪化が続きました。
約 1 年半前	再悪化	全身が厚く黒っぽい皮膚となり、治療を開始しました。
治療中	皮膚の入れ替わり	毎日 2～3 時間入浴し、多量の落屑が続きました。
治療約 1 年後	症状の強い時期	前額部の生え際の脱毛と浸出液、全身の創部が強くなりました。
2016 年 7 月	記録時点	検査値は全体として低下傾向でした。

4. ピーク時期

ピークは、治療約 1 年後に前額部の生え際から毛髪が抜け、浸出液が続き、全身に創部がみられた時期です。

5. 困りごと

- ・毎日 2～3 時間の入浴と多量の落屑への対応が必要でした。
- ・全身の厚く黒っぽい皮膚、乾燥、かゆみが長く続きました。
- ・前額部の脱毛と浸出液、全身の創部がみられました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総 IgE	TARC	LDH	リンパ球	ACTH
2015/4/26	11575	10892	417	17.2	4.1
2015/6/7	9050	6702	352	22.4	4.9
2015/7/12	—	3273	340	19	5.1

時期	総 IgE	TARC	LDH	リンパ球	ACTH
2015/8/23	9900	3194	355	15.6	4.2
2015/9/27	11125	2004	303	19.6	7.8
2015/11/1	11025	1755	253	24	—

時期	総 IgE	TARC	LDH	リンパ球	ACTH
2015/12/6	9925	1385	232	27	13.8
2016/1/24	8175	1598	275	39	—
2016/2/28	8400	1652	262	23	—
2016/4/24	7200	2713	288	27	—
2016/6/19	6225	1070	238	24.3	—

7. 経過のまとめ

記録時点では皮膚症状がやや残るものの、大きな支障なく日常生活を送れるようになっていました。一時的な悪化やリバウンドを伴いながらも、通院経過の中で、皮膚状態に回復傾向がみられた症例です。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。